

高山市における橋りょう長寿命化の取り組み（建設課）

○取り組みの概要

高山市では現在、939橋の橋りょうを日常のパトロールや点検を行いながら維持管理しています。

一方で、橋りょうの多くは1960年度代の高度成長期に建設され、高齢化による劣化の進行が課題となっています。

このため、橋りょうの安全性や信頼性を確保しつつ、将来、一度に多くの橋りょうが架け替えとならないように、高山市橋りょう長寿命化修繕計画（以下、「修繕計画」）に基づき修繕を実施しています。

修繕計画は、5年に一度実施する詳細点検の結果や、橋りょうの利用状況などを踏まえ策定したもので、劣化が著しく進行した後の「対症療法」としての修繕ではなく、劣化の進行が比較的軽い段階での「予防保全」として計画的に修繕を行うことで、長寿命化や修繕費用のコスト縮減を図っています。

○建設課職員の業務

■職員の点検道具と点検状況



修繕計画に基づき、対象となる橋りょうの修繕設計業務や工事費の積算、工事発注、監督業務を行っています。

設計業務は建設コンサルタントに委託しますが、どのような修繕方法が良いのか、より長寿命化を図るにはどのような工法が良いのかなど、コンサルタントと一緒に頭を悩ませながら修繕方法を決定します。

また、老朽化した橋梁を工事により修繕するだけでなく、日常の点検や5年に一度の法定点検も大切な業務のひとつです。

橋長が15m以上の橋りょうの点検は、より専門的な知識を要している建設コンサルタントに業務を委託しますが15m未満の比較的小さな橋りょう（630橋程度）については、MEを取得した職員を中心に、チームを組んで点検を行い、適正な橋梁の維持管理に努めています。

－MEとは？－



MEとはメンテナンスエキスパートを略したものです。岐阜大学にて「社会基盤メンテナンスエキスパート養成講座（4週間の短期集中講座）」を受講し、認定試験に合格したインフラ施設維持管理の高度専門技術者がMEです。

【中橋】



高山市の赤い欄干の橋で有名な「中橋」は、平成26年度に耐震補強や橋脚補強、修繕工事を実施しました。特に高欄色については、「以前の色は朱色ではなく、もっと鮮やかな赤色であった」との近隣の方々からの意見を参考に、8町内会、高山市景観町並保存連合会の皆様と相談、協力して昔の中橋の色を再現しました。

○橋梁修繕工事の例

（高山市下林町他地内 栗尾橋 橋脚の洗堀）

補修内容

- ・根固コンクリート工 V=32 m³ 根固ブロック工 N=72 個
- ・工事用道路 L=42m 仮締切工一式

■橋脚の洗堀状況



■根固ブロック設置状況



■完成

